

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社ドルフィン・エイド
施設名	ドルフィン・メイトこども園 倉敷
報告者（役職）	贅田 征子 （園長）
住所・連絡先	岡山県倉敷市西中新田295-1 ピア倉敷1階
	☎ 086-697-6311
	E-mail d-matekurashiki@dolphinaid.jp

○タイトル（保育計画）

あそびは最高の学び。『あそびの世界』を真剣に考える。

○主な助成備品

壁面遊具、知育玩具、間仕切りフェンス、お散歩車 など

1. 保育計画策定の目的

本園では、子どもは何も知らない無能で無力な存在ではなく、子どもたちと私たちは保育を通じて共に育ち合う存在でありたいと考えています。よって保育方針も、大人が子どもに教え込んだり、大人の意図へ誘導したりせず、子どもたちと共に学び合う保育を心がけています。中でも、子どもたちの『あそびの世界』には、自ら困難な事に挑戦する心や、友達や生き物と共存する心、自分の弱さや不正に立ち向かう勇氣など、生涯必要な力の基礎が詰まっていると捉え、あそびや学びの質向上を目的に策定いたしました。

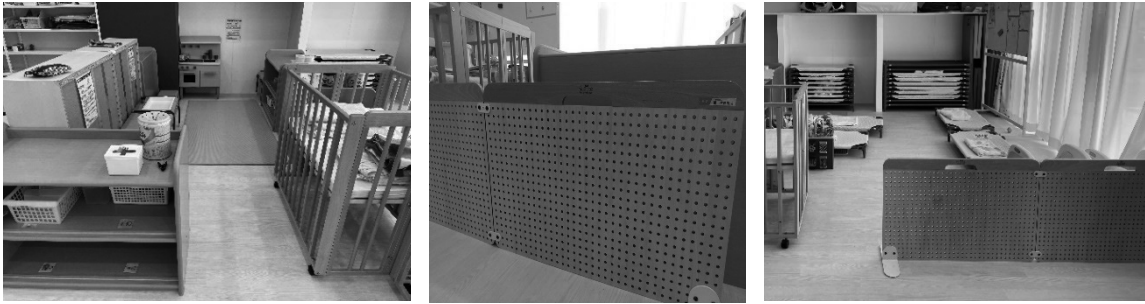
2. 具体的な実施内容

子どもたちが自ら遊びに没頭する『あそびの世界』がより安全で豊かなものとなるよう、保育環境や遊具を充実させると共に、私たち大人もあそびについて真剣に考えながら、主に次の3つを実施しました。

①子ども自身が、あそびや居場所を選択できる環境を充実させました。

【 あそびの空間と種類の充実 】

0歳児～就学前までの異年齢児をワンフロアで保育しているため、互いが安心してあそび込める環境を構成することが難しい状況でした。今回、稼動できる間仕切りを設置し、子どもの姿に応じて空間を区切ることで、それぞれの子どもが“今やりたいあそび”に対応できるようになりました。また、玩具の数と種類の充実により、あそびを選択する幅が広がりました。



【 自ら選択したあそびによる知識と経験の充実 】

挑戦する過程の中で得る知識や経験が、後に自分や誰かの助けとなるような成果に期待し、友達と一緒にルールを作ったり変更したりすることができるボードゲームや、正解の概念の無いアートの世界を楽しむことができる道具を導入しました。“できる・できない”の結果に囚われることなく挑戦しやすい雰囲気づくりを大切にしました。子どもたちが『あそびの世界』を、より楽しむため「安全=良い」「できる子=良い子」という概念に捉われることなく、不便さや挑戦に伴うリスクも効果的に機能させながら育ちを支えました。



②地域の資源を活用し、自然や地域の人との関りを保育に繋げました。

私たちの保育園には園庭が無いいため、地域の資源を活かしながら保育を展開しています。この度、散歩車や体育遊具が充実したことで、豊かな自然にふれる機会が格段に増え、室内外での運動あそびの幅も広がりました。特に園外保育では、地域の様々な職種の方と関わる機会が増え、そこから生まれた新しい繋がりや価値を、子どもの育ちに繋げるよう地域交流に一層注力しました。



③子どもたちにも環境にも優しい遊具を導入しました。

SDGs 推進企業として、地球環境を壊す原料や原因を抑え、自然環境と社会環境の両方に配慮されている点に拘り、子どもたちと地球環境に優しい壁面遊具を選びました。また、環境や自然についての意識付けの基礎となるよう、子どもたちがいつでも触れることができる場所を選んで設置しました。



3. その成果と評価

- ①子ども自身が、あそびや居場所を選択できる環境を充実させたことにより、それぞれが落ち着く空間で集中してあそび込み、自ら学びを深める場面が増えるという成果が見られました。また、仲間とあそびの中でアイデアを出し合う機会が増え、対話能力、語彙力、表現力などの、非認知能力の質が向上する成果が見られました。
- ②地域の資源を活用し、自然や地域の人との関りを保育に繋げた結果、地域の方がサンタクローズになって保育園を訪問してくれたり、門松を設置しに来てくれたりと、保育園と地域の結びつきがより豊かになり期待以上の成果が得られました。また、散歩車を増やしたことで、行動範囲が広がった他、その日に見たい物や、関心が高い物に関わりやすくなり、その結果子どもたちが本物に触れる機会が増えました。
- ③子どもたちにも環境にも優しい遊具を導入した結果、私たち大人が与える環境や影響は子どもたちの育ちに直結していると改めて痛感しました。自然環境と社会環境の両方に配慮された遊具を導入したことで、子どもたちと共に「安全とは何なのか」という問いを持たせたことが一番の成果だと感じます。安全に対する意識や自然事象に関する知識を一層高めていくと共に、できることは小さくても、行動することで引き続き成果に繋がって行きたいと思います。

4. 今後の課題と展望

この度の応募のきっかけの一つに、次のようなエピソードがあります。ある子どもが「先生見て！黒いのが(自分の影)大きくなったり小さくなったりしてる！」と、自分の影と夢中であそんでいました。子どもたちの『あそびの世界』で起こる出来事はいつも、科学的で、物理的で、数学的で、文学的です。本園は、子どもたちにとってあそびは単なる娯楽でなく、人生において大切な基盤となると捉え『あそびの世界』を真剣に考えてきました。そして、あそびについて保育園の枠を超えて、様々な業種の人々と共に考えたいと思い応募した結果、たくさんの遊具を贈呈して頂いた他、それらを活用したことで、益々地域の方との結び付きが強くなりました。

本園の今後の課題は、子どもたちの『あそびの世界』が一層面白く豊かなものになるよう、あそびの価値や質を向上させることだと思います。今後も、地域資源や多くの人々の価値観を保育に積極的に取り入れていきます。

この度は、子どもたちの『あそびの世界』を共に考えて頂きありがとうございました。贈呈して頂いた遊具等を活かし、幸せな子どもたちが増えるよう努力してまいります。

以上